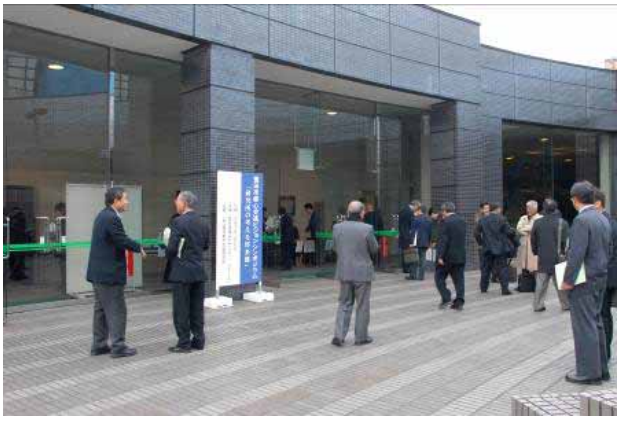
■シンポジウム開催状況写真■



『豊田市都心交通ビジョン』検討の趣旨

魅力ある都心の形成は全国の地方都市において喫緊の課題として取り上げられている。まちづくり三法の改正を例に挙げるまでもなく、国レベルでもこの問題に対する対策に力を入れているが、豊田市においても「豊田市中心市街地活性化協議会」が設立され、豊田商工会議所を中心とした取り組みが進められている。

魅力ある都心の形成は一朝一夕には実現せず、時間と根気が必要な大事業であるが、都心が都市のイメージを決定づける非常に重要な地域であることを考慮すると、人口減少が進み、地域間競争がますます激しくなるこれからの時代において、都心を活気づけることは都市政策上、極めて重要な要素である。また、都心が魅力的になることにより、その波及効果は市内の他の地域にも及ぶこととなり、地域全体の活性化につながることになる。そういう意味で、都心の魅力向上は地域を挙げて行うべき事業である。

豊田市では、これまでも都心地区にさまざまな施策を行ってきたが、顕在化した問題に対する対症療法的な施策になりがちであり、結果として、長期的抜本的な対応が進んでいないようである。豊田市民を対象とした市民意識調査においても「中心市街地の活性化」は公共交通の整備とともに常に多くの市民から求められ続けている。

市民から強く求められている活力のある魅力的な都心の形成は時間のかかる事業であるだけに将来を見越した中長期的なビジョンを共有し、その方向に合った施策に行政・市民がともに協働して進めることが肝要である。

財団法人豊田都市交通研究所では、平成 18 年 6 月 26 日に豊田市長より、「都心交通ビジョンについて」の諮問を受け、これまで豊田市に欠けていた都心の将来ビジョンについて検討する機会を与えていただいた。検討にあたり、これまでに当研究所が培ってきた都市および交通に関する知見を活用することはもとより、足りない部分については、都市計画・交通計画・都市政策等に明るい日本を代表する研究者による「豊田市都心交通ビジョン懇談会」を設置し、そこでの議論を踏まえて、豊田市都心地区の将来ビジョンおよびそこでの交通のあり方、その実現に向けた方策について検討を行った。

ここにご紹介する都心交通ビジョンは、12 月 15 日に豊田市長に答申を行ったものであり、豊田都市交通研究所の考える豊田市都心の将来像である。都心の将来像については人によりさまざまな考え方がある中で、この提案が豊田市の将来を考える上で参考になれば幸いである。

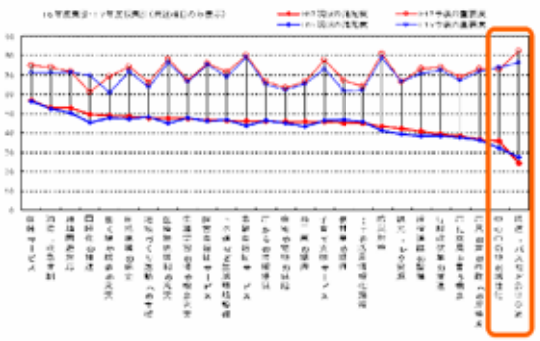
なお、検討過程においては、関係諸機関の多数の方々のご意見・ご協力を得ることができた。この場を借りて感謝の意を表したい。

豊田都市交通研究所所長　太田勝敏

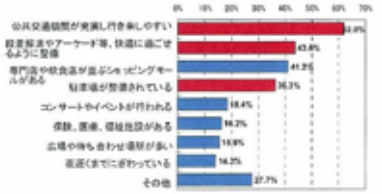
都心交通ビジョン懇談会　委員名簿

	委員氏名	団体名	職名等
会　長	太田　勝敏	財団法人豊田都市交通研究所	所長
委　員	北沢　猛	東京大学大学院	新領域創成科学研究科教授
委　員	宗田　好史	京都府立大学	環境デザイン学科助教授
委　員	森川　高行	名古屋大学大学院	環境学研究科教授

市民の施策に対する満足度と重要度



■市民が魅力的と感じる都心地区



市民意識調査（平成11年度）より作成

検討対象とした都心の範囲

将来都市構造の基本的な考え方

選択と集中による都市基盤の整備を推進し、918km² という広大な市域での効率的な都市経営の発展を支えるため、一体的市街地の形成促進とコンパクトな都市拠点・核をネットワークする集約型都市構造の確立を図り、市域の均衡ある土地利用を促進する。

出典：第６回総合計画審議会（H18.11.17）資料より抜粋

将来都市構造イメージ

■シンポジウム配付資料■

豊田市において都心が果たすべき役割

- 豊田市の玄関口として、街を訪れる人々の心を惹きつけ、豊田市の魅力的な個性をわかりやすく具現化する『街の顔』としての都心
- 高次な都市機能の集積とその継続的な育成を図り、都心の居住者や就業者、来訪者にとって便利でかつ魅力的であり続ける都心
- 市内の複数の地域拠点が連携しながら、総体として機能を発揮するネットワーク型都市構造の中心として、便利かつ快適で強い交通骨格に支えられた都心

都心を核に
緑の連続を図り、交通の骨格を整え、
都市機能の集約と育成を図り、
都心の個性を具現化することで、
豊田市の都市構造再編の起爆剤とする

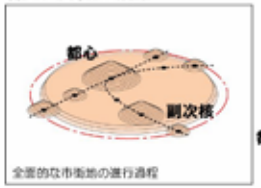
都心活力の源泉である
都心の昼夜間人口の増大をめざす
・都心就業人口**約 10,000 人増**
・都心居住人口 **10,000～20,000 人増**など

そのために都心において必要な取り組み（例）

就業環境生活環境の向上（例：事業所誘致）	豊田市型職住近接モデルの構築	地上面の歩行者空間化とにぎわいの創出	都心公共交通と広域公共交通の結節点	その他様々な取り組み・・・

→ 都心の目指すべき９の目標へ

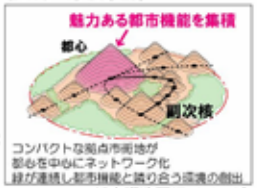
現在の市街化の傾向



全面的な市街地の進行過程

都市構造再編

求めるべき市街地像



都市構造再編イメージ

都心が果たすべき役割から見た『豊田市全体の目指すべき方向』

1．世界で最も先進的な環境都市

- 各地域拠点がコンパクトに市街地を形成し、機能分担しながらネットワークする、トータルでの環境負荷が少ない、豊田市独自の都市構造を構築する。
- 豊かな緑地帯や農地を保全し、緑化推進と産業振興との共存を図った、緑の豊かな先進ハイテク工業都市をめざす。
- 自然や農地を活かした地産地消など新たな魅力の開拓、いつでも安心して歩ける環境整備など、健康都市の先進モデルをめざす。

2．世界経済を牽引する企業が立地する洗練された文化都市

- 活力ある都市づくりの源泉として、多様な就業機会と就業の場、それに伴う居住の場を受け入れ、育んでいく環境づくりを進める。
- 豊田市の個性を活かした街としてのブランド性の向上、良質なデザインによる街の風景の創出、新しいライフスタイルの追及など、洗練された都市文化を育む都市を実現する。
- 気軽に学べる生涯学習からハイレベルな文化・教育まで幅広く学べる教育・学習環境を整備し、市民の手でその環境を育んでいく。

3．世界に誇れる『かしこい交通社会』が実現した交通モデル都市

- 世界の最先端を歩むITSやTDMに先進的に取り組んできた実績を活かして、過度な自動車利用を抑え、歩行者・公共交通と自動車が調和した交通体系を構築し、世界に誇れる『かしこい交通社会』をめざす。
- 市民・企業・行政のパートナーシップにより、誰もが安全で、安心して、円滑に移動でき、さらには、環境にやさしい世界の模範となる持続可能な交通システムを構築する。

美しいまち　TECH²（てくてく）豊田
Transportation(交通)/ Environment(環境)/ Culture(文化)/ Hospitality(おもてなし) × TECHnology(テクノロジー)
⇒ もっとてくてく歩きたくなる都心へ！

都心が目指すべき９の目標

① 世界で最も進んだ環境負荷低減モデルとなる都心を実現する。

② 豊かな水、緑、生態系が調和し、市民に愛される環境を実現する。

③ 市民が健康であり続け、安心して暮らせる生活環境を整備する。

④ 経済活力と豊かな暮らしがバランスした新しい職住共存モデルを構築する。

⑤ 戦略的なまちづくり組織を中心に、都心に品格ある景観をつくり、にぎわいを高める。

⑥ 都心生活を楽しみ豊かな都心文化を育む多様な教育・学習環境を整える。

⑦ 交通新システムの導入など、公共交通が快適に利用できる先進の環境を整備する。

⑧ 歩行者と公共交通が優先され、歩行者が安全・安心に回遊できる都心をつくる。

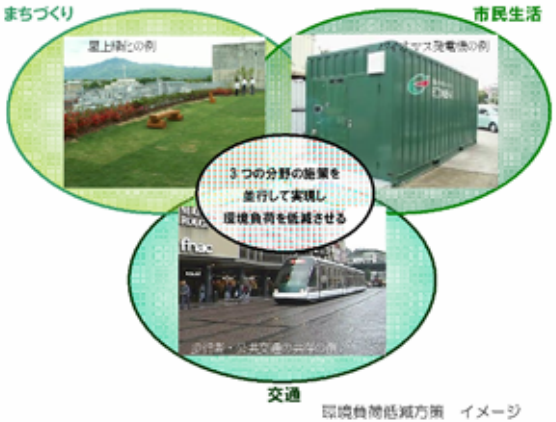
⑨ ITS を活用し、人と車の未来を見せる『かしこい交通社会』を実現する。

都心が目指すべき９の目標

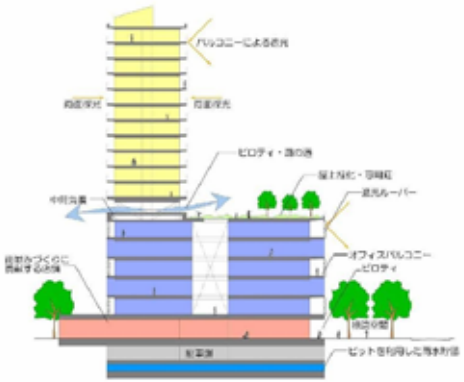
１．世界で最も先進的な環境都市

①世界で最も進んだ環境負荷低減モデルとなる都心を実現する。

■まちづくりに関する環境負荷低減方策の実現
■市民生活に関する環境負荷低減方策の実現
■交通に関する環境負荷負荷低減方策の実現



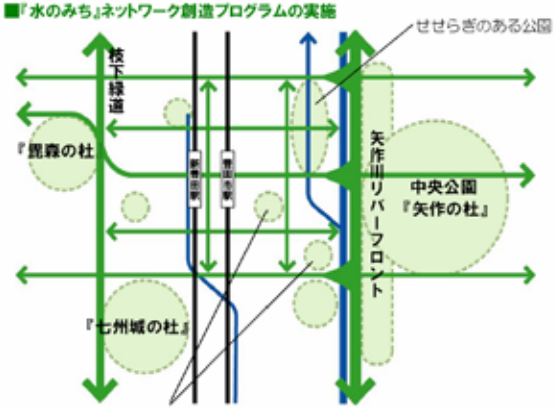
環境負荷低減方策　イメージ



環境負荷低減に貢献する建築物の例

②豊かな水、緑、生態系が調和し、市民に愛される環境を実現する。

■3 つの『杜』の創造
■緑のネットワークの創出と市民参加の推進
■『水のみち』ネットワーク創造プログラムの実施



都心のグリーンネットワーク　ダイヤグラム

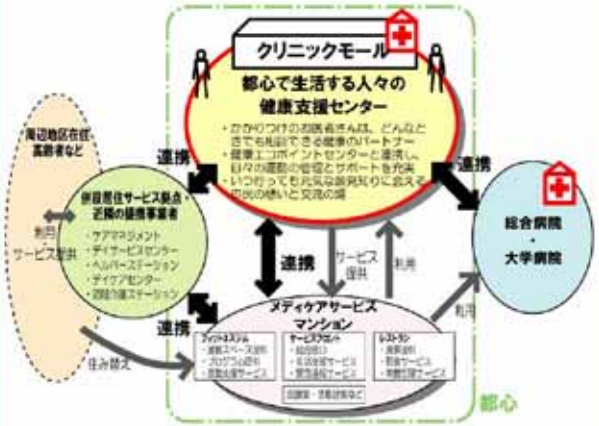
街なかエコスポット　イメージ

せせらぎのある公園　イメージ

③市民が健康であり続け、安心して暮らせる生活環境を整備する。

■街なかを歩きたくなるような、身体を動かしたくなるような都市環境づくり
■歩行・自転車利用推進のためのエコポイントプログラムの実施
■豊田版農業・食育プログラムの実施
■医療・福祉の総合的な都心支援プログラムの実施

スポーツシーン　イメージ



都心医療・福祉ネットワーク　ダイヤグラム